

共生と平和の科学

原 順子・高橋 伸行
三小田 博昭・野田 真理*

【抄録】 新教科群の1つ「共生と平和の科学」は高校2年生の後期に開講される。「専門基礎期」のまとめとして、共生と平和という大きなテーマを「貧しさと豊かさ」「ヒトと人」「女と男」の3つの方向から系統的に見ていく。初年度（02年度）は全18時間、うちガイダンス各1時間、3テーマ合同5時間、2テーマ合同各2時間、テーマグループ別8時間で授業を行った。この3重らせんの授業形態と生徒の感想を中心に初年度の実践を報告する。

【キーワード】 新教科 共生 平和 開発教育 発展途上国 生命倫理 進化 性差 ジェンダー

1. はじめに

現代は共生と平和が必ずしも実現していない、と仮定することからこの講座は始まる。目標は共生と平和の実現のために必要な仮説を立てることである。仮説を実践していくのはこれからの人生である。仮説をたてるアプローチは3つである。その3つとは「貧しさと豊かさ」（英語科担当）「ヒトと人」（理科担当）「女と男」（家庭科担当）である。3つの教科の立場から、共生と平和を邪魔している要因は何かを考えたとき、これらが小テーマになった。英語科は題材として発展途上国の現状や開発教育に触れる機会が多く、世界経済の不平等を対局にある「貧しさと豊かさ」という言葉で表現した。理科は生物学、生命倫理の立場から生命としてのヒトと、社会に

生きる人の葛藤を「ヒトと人」という言葉で表現した。家庭科は家族、自立を考えると避けては通れない性差の問題を「女と男」という言葉で表現した。いずれも教科の授業の中では、指導要領の示す基礎基本などと比べると優先順位が下になり、まとまった時間を割くことができないでいた題材である。しかし、どの小テーマも今日的で21世紀には避けて通れない、非常に大切に新しい基礎基本になりうるテーマと考える。さらにこの新教科はそれぞれの小テーマから仮説を導き出すことだけが（それだけでも十分難しいが）目標ではなく、3つをリンクさせながら、共生し平和の実現のために、一定の法則性を持った共通の仮説を立てることである。はたしてこれまで1つの教科から授業を組み立てる経験しか持たない我々にどこまでできるか、授業実践を試みた。

2. 授業内容とテーマのねらい

担当	三小田・野田	高橋	原
テーマ	貧しさと豊かさ	ヒトと人	女と男
ねらい	途上国の現状を知り、途上国には何が必要なのかを考え、先進国に住む人間は何をしなければいけないかを考える。	人間もまた生物の一員である。人間の生物学的な本性を理解した上で共に生きやすい社会を構築するヒントを探る。	女と男、♀と♂。違う？同じ？共に生きる平和のために何が大切かをジェンダーの視点から探る。
第1回 10月10日	「女と男」のガイダンス：「セックスとジェンダー」（原）		
第2回 10月17日	「貧しさと豊かさ」のガイダンス：「バングラデッシュ体験報告」（三小田）「ベトナム体験報告」（野田）		
第3回 10月24日	「ヒトと人」のガイダンス：このコースのめざすもの		希望クラス分け
第4回 10月31日	ブレイクストーミング 1枚の写真から見える「貧しさと豊かさ」Ⅰ	「氏か育ちか」遺伝か環境か*ミニ討論	ジェンダーを見つけよう① 「女のくせに男のくせに」セックス？ジェンダー？
第5回 11月7日	ブレイクストーミング 1枚の写真から見える「貧しさと豊かさ」Ⅱ	社会ダーウィニズムと優生学	ジェンダーを見つけよう② 「女」「男」の入っている言葉を辞書で探そう。そこから何が見える？

*名古屋大学助手（現中部大学助教授）

第6回 11月21日	世界の中のジェンダー① 開発教育とジェンダー 「発展途上国の現状」 ロールプレイ～ガンボジアの少女（野田）（女と男グループと合同）	学外講師（生命倫理学）	世界の中のジェンダー① 開発教育とジェンダー 「発展途上国の現状」 ロールプレイ～ガンボジアの少女（野田）（貧しさと豊かさグループと合同）
第7回 11月28日	ナイジェリアからのゲスト ジョセフさんのお話	進化の概念 進化に関する誤解を解く	世界の中のジェンダー② 北欧の社会制度と教科書
第8回 12月5日	文化、人種の違いによる摩擦体験「ひょうたん島問題」 カーニバルがやってきた	ヒトの進化① ・遺伝子と行動	世界の中のジェンダー③ ノルウェーの教科書より「女と男の違うところより、同じところに注目しよう」
第9回 12月12日	教育問題の現状 途上国における教育問題識字についてのウェビング	ヒトの進化② ・霊長類の進化	メディアとジェンダー ジェンダーを再生産するものは何か
第10回 12月17日	識字についてのウェビング説明 非識字体験（ハンゲル等）	協力行動の進化*「囚人のジレンマ」ゲーム	メディアリテラシー新聞、雑誌の中からジェンダーバイアスの表現を見つけよう（TV、映画は冬の課題）
第11回 1月16日	中間 報告会 （クラス単位）		
第12回 1月23日	日本の援助 「JICA君の国際協力って知ってる？」 援助と開発（ランキング）	ジェンダーフリーの社会を目指して—セックスは2つではない—TTSファミリー松尾かずなさんの話（女と男グループと合同）	ジェンダーフリーの社会を目指して—セックスは2つではない—TTSファミリー松尾かずなさんの話（ヒトと人グループと合同）
第13回 1月30日	援助と開発（ランキング） ランキングを通して考えることODAについて	行動の生理学	メディアリテラシー 冬休みの宿題提出及び発表会
第14回 2月6日	「開発とボランティア・人はなぜ助け合うのか」(野田)（ヒトと人グループと合同）	「開発とボランティア・人はなぜ助け合うのか」(野田)（貧しさと豊かさグループと合同）	「平和と共生」とジェンダー なぜジェンダーにこだわる必要があるのか。
第15回 2月13日	集録作成 （クラス単位）		
第16回 2月20日	ワークショップ貧困の鎖の変形—それぞれのグループで学んだことを出し合おう—平和と共生のカード作り (クラス単位)		
第17回 3月6日	ワークショップ貧困の鎖の変形—それぞれのグループで学んだことを出し合おう—平和と共生のカードを使って、わたしたちにできることを考える (クラス単位)		
第18回 3月13日	集録綴じ・アンケート・調査 (クラス単位)		

3. 「貧しさと豊かさ」野田・三小田グループ

1) ねらい

先進国で生まれ、生活している私たちには全く想像もできないくらい劣悪な環境の中で生活している人々が世界には何十億人という。また先進国の豊かさは途上国の貧しさの上に成り立っている部分も大きい。地球上の人々が共存していくためにはまず現状を知ることから始めなければならない。知ることから始まり、そこから共存していくためには私たちには何ができるのかを考え、そして実行する。その中でもこのグループの大きな目的は「知ること」に重点を置いた。

2) オリエンテーション

ベトナム・バングラデッシュの様子を視覚的に捕らえ、日本での生活と比較することを行った。またもし「世界が100人の村だったら」に従い、クラス40名を分類し、世界の人たちがどのような状況におかれているかを疑似体験を行った。

3) プレーンストーミング (第4、5回)

1枚の写真から見える「貧しさと豊かさ」。日本・マリ・ブータン・ユーゴスラビアの一般的家庭の写真から「貧しさと豊かさ」を比較した。物がありふれている日本の家庭が「豊か」なのか、物が全くといていいほどないブータンの家庭が「貧しい」のかをグループごとに意見を出し合い、話あった。

4) 「女と男」との合同授業 (第6回)

世界の中のジェンダー

「女と男」グループと合同でガンボジアの少女売春についてロールプレイをした。5. 「女と男」原グループ

3) (1)参照

5) カルチャーショック (第7回)

ナイジェリアからのゲスト、ジョセフさんのお話

途上国からゲストを招き、交流することでナイジェリアの生活や文化を学んだ。なぜナイジェリアは貧しい国なのか、から始まりでは日本は本当の意味で豊かな国なのかまで多岐多様な質問や感想を生徒はもち、カルチャーショックを多く受けた。また生徒はゲストと英語



でやり取りをしたので、英語の重要性をも感じた。

6) 異文化理解 (第8回)

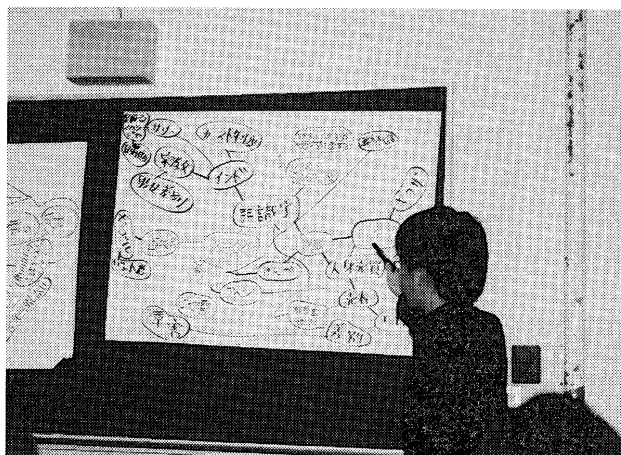
「ひょうたん島問題」

コンピュータシミュレーションとロールプレイを組み合わせ異文化間の摩擦を疑似体験した。以下生徒の感想。
①まずは少数派も多数派もお互いの意見を聞くべきである。それでそれを考慮に入れて妥協案を考えるべきだと思います。(NY) ②立場が違くと価値観が全然違うことがわかった。いろいろな人種がいるとやっぱりたいへんなんだなあと思った。(MU) ③楽しかった。自分と違った役だったけど、ロールプレイをやっているうちにその役の人に共感してしまった。この小さな島だけで、こんな問題があるんだから世界で考えると大きすぎて大変だと思う。(MY)

7) 途上国の教育問題 (第9、10回)

ウェビング

非識字を中核としてそこに関連して起こると考えられるさまざまな事を書き上げそれを線で結んでいく。読み書きができないことはそれだけにとどまらず、人間の生死にまで及ぶということに多くの生徒が気づいた。また国ごとの識字率や男女間の識字率を学ぶことにより、途上国の抱える問題が浮き彫りとなった。



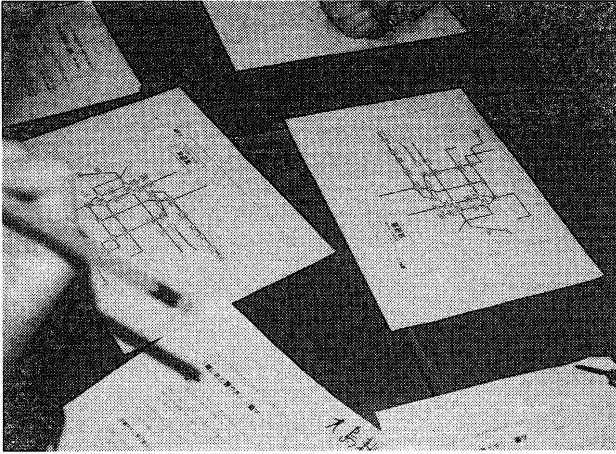
非識字体験

3グループに分かれそれぞれが非識字体験を行う。

- ①ハンガール語で書かれた大阪の地下鉄案内をたよりに梅田から目的地へ行く。
- ②ベトナム語で書かれた袋の中身をグループ内で相談し、何が入っているのか考える。
- ③ベンガル語の教科書を見て、いったい何の教科の教科書かをグループで推測する。

それぞれが生徒にとって全くなじみのない言語で書かれているために、グループ内で相談したところで結論はでない。仮に意見がまとまったにしても正解はわからないので、推測で結論をだしたに過ぎない。非識字の人たちは、日常生活の中でこの授業で行った体験をしていることを実感してもらおう。読み書きができないことが発展途上国の人たちにとってどのような意味をもつのか生

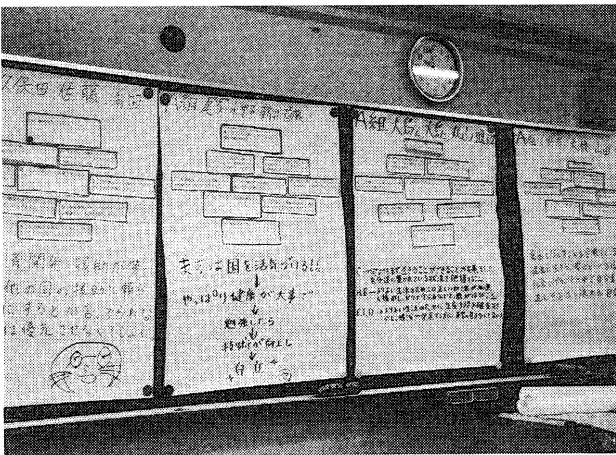
徒は身をもって感じる事ができた。



8) 先進国にいる私たちに何ができるか (第12、13回)
 援助と開発 (ランキング)

まずJICAからお借りしたビデオ「JICA君の国際協力がって知ってる?」を見て日本が途上国に対してどのような援助をこれまでに行ってきたのか、また実際に行っているのかを見た。多くの生徒が始めて聞いたり見たりすることばかりで日本が行っている援助の内容がいかにか高校生には伝わっていないかがわかった。また援助の中には現地の実情を全く無視した援助や、援助という名のお仕着せの援助も実際には行われていることがわかった。

私たちが援助をする上で何を最も重要視するかをグループに分かれてランキングした。その上でなぜそのように自分たちのグループがランキングしたのかの理由も説明してもらった。結果的に援助をする国の考えによってその援助の仕方や方法が変わってくることに生徒は気づいた。



9) 「ヒトと人」との合同授業 (第14回)

ディベート

議題1) 東海大地震が来て皆さんの住んでいるまちにも大きな被害がでた。こういう非常時にはたとえ自分の身を呈してでも近所の住民(住民といってもいろんな人がいるが)を助けるべきである。

議題2) 報道によれば隣のK国で深刻な食料危機により

多くの餓死者が出ているらしい。これまでの様々な経緯により我が国との関係は決して友好的ではない。だがこうした状況下ではたとえ自分の食べる分を削ってでもK国に食料を援助すべきである。

以上2つの議題に関して「貧しさと豊かさ」「ヒトと人」の2グループが入り交じったかたちでのディベートを行った。議題1)に関しては

肯定側から

- ・同じ人間としてあたりまえ
- ・もし助けなかった時にあとから後悔する
- ・困った時はお互いさま
 などの意見がでた。

反対側)

- ・素人だからたすげれない・専門家(レスキュー隊など)にまかせる
- ・人の死は運命だからしょうがない
 などの意見がでた。

議題2)に関しては

肯定側)

- ・非友好的でありうと逆の立場で考えたら助けるのが当然
- ・助けたあとで自分たちに何か返してくれそう
- ・食料に恵まれている国に生まれたのだから助けるべきだ
- ・人間にはみな同じように生活し生きていく権利がある
 などの意見がでた。

反対側)

- ・援助してもどうせ上層部がとってしまう
- ・援助した後、裕福になって反撃される
- ・援助しても一時的な解決にしかない
 などの意見がでた。

4. 「ヒトと人」高橋グループ

1) 目的

この授業で目指したところは、以下に示すとおりである。

- ①ヒトもまた生物である。
- ②であれば、ヒトも進化の産物である。
- ③ということは人間の行動も生物学的性質の例外ではない。
- ④そこで、人間行動の成り立ちを進化生物学的視点から考えてみる。

これらのことをふまえた上で、自分(達)と違うことを認め合う、そんな視点を構築する。

2) 授業の進め方

(1)ヒトの本性 = 遺伝か環境か

生物学の誤解・誤用の歴史(社会生物学論争等の紹介。優生学、社会ダーウィニズムなどの解説)。

→別表授業計画表の第4回～第5回

(2)生命倫理学の視点(新優生学の動き等も含め)

(1)-2とも言うべき内容

第6回で名古屋大学大学院医学系研究科長 勝又義直教授(法医・生命倫理)に講義をお願いした。

内容はヒトゲノム計画、遺伝子診断について、及び、そこから派生する問題。

第 回でここまでの内容をふまえ、資料1のような教材を準備し、小グループにわかれての討論を行わせた。

(3)進化という現象の正しい理解

(4)を理解するために進化生物学の視点を身につけることを目標にした回。

第7回、第8回

(4)人間行動の裏に刻まれた進化

「である」と「であるべき」は違うことを根本にふまえさせた上で、生物としての人間の本性(例えば、人間の本性は戦いか、助け合いか)を探った。手法としては、行動生物学の知見を応用した。

(5)よりよい、「共に生きる」世の中を考えるためのヒント

第14回~他の2グループと合同で、お互いの成果・知見を紹介しながら、まとめを行った。

3) 評価

定期試験期間に、ペーパーテストは実施しなかったの
で、レポート等による評価を積み重ねた。具体的には、
①第13回の討論のメモ書きや討論への参加の様子、発言
内容。②第6回まで(前半、生命倫理的分野)の内容を
ふまえたミニレポート③最終レポート、を評価の材料と
した。

初めての試みのため、3つのグループが「平和と共生」というテーマのもとにいかにかまとめ上げられていくか模索したこと、また、「心と体の科学」との棲み分けにも配慮した。そのため、①から②という幹と③という幹というやや毛色のことなる分岐を出したため、やや散漫になったことは否めない。

資料1 ()内は生徒の意見の例

あなたの暮らす、島国には遺伝性のX病が古くから風土病として存在する。

この病気の遺伝子はメンデル式の遺伝をし、この遺伝子自体は劣性遺伝子であることがわかっている。また、この遺伝子は遺伝子検査で検出できるが、治療法は見られていない。

【1】あなたの家族がこの遺伝子の保因者であることが、偶然わかった。

①あなたは本人に対してどのようなケアをしてあげられるだろうか。

②あなた自身もその遺伝子を保有している可能性がある。あなたは遺伝子検査を受けに行こうとするだろうか。

(「知らない方がよいので行かない。」「自分のことは自

分が一番よく知っていないからする。」「結婚する相手が保因者かもしれない。子の世代のこと考え、自分も保因者であるかどうか知っておいて相談する。)」

③ARA検査の結果、あなたも保因者であることがわかった。しかし、ヘテロのため、あなた自身は発症しない。あなたには結婚を約束した相手がいる。さあ、あなたはどのようにする?

逆に、あなたはこの遺伝子を保有しておらず、相手が保因者だったらどうする?

(「相手の意志を尊重する。」「そんなことで愛情は変わらない。)」

【2】この病気の遺伝子を撲滅しようという政策が提案されている。具体的には、キプロスが行った、サラセミア対策と同様の方法である。

①あなたはこの国の保健大臣である。この政策を採用するか。積極的に採用?やむを得ず採用?全く反対?

(「差別だから反対」「身内に生まれたら悲しいからやむを得ず採用」「どこかで止めないといけないので、やむを得ず採用」「撲滅すれば楽になるかもしれないが、病気の人の存在を否定するようだ」「検査する・しない、産む・産まないは国民の自由のはず」)

②あなたは一市民である。この政策を採用しようという政党に投票する?しない?

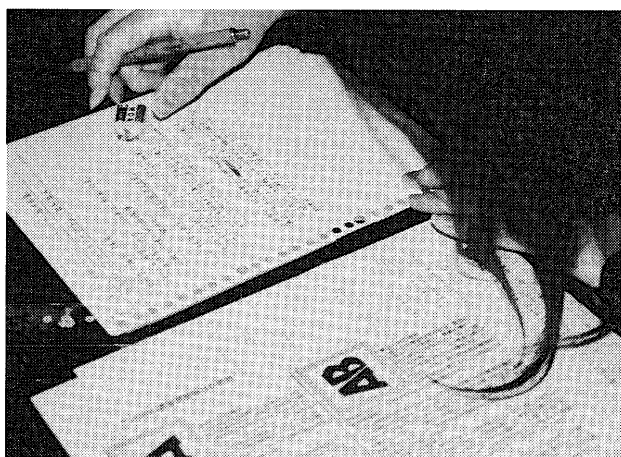
(「自分の子どもが病気でも、どんな子でも受け入れて立派に育てるという強い意志をもった人にとってこの政策は酷すぎる。)」

*いろいろな条件を想定してみよう。

例:致死性の病気か否か。あなたが経済的に恵まれた立場か、余裕がないか。など

【メモ】他の人の意見等書き留めてみよう。

(人の命とかそういう大事な問題は、自分の気持ちが一番大切。他人がどうこうする権利は無いと思う。)」



5. 「女と男」原グループ

1) 第1回 オリエンテーション「セックスとジェンダー」

生徒全員が性差についてが紙に書き(表1参照)、黒板

に貼る。セックスとジェンダーの説明を聞いてから、黒板の紙をセックス、ジェンダー、どちらでもない、に分けていく。

(表1) 生徒が書いた性差 (116人中)

順位	人数	性 差
1	36	体 体格 体の大きさ
2	10	体力 力の差
3	8	自覚 自分で男・女と思う
3	8	声 声の高さ
3	8	見ため 外見
6	7	子どもを産めるか産めないか
7	5	考え方 思考
7	5	服装
9	5	性格
10	4	生活
10	4	陰部 股間
その他：遺伝子 トイレ ランドセル 戸籍 気持ち 決められない など		

2) 第4・5回 ジェンダーを見つけよう

(1) 私たちの身に付いている性差の意識を、女のくせに、男のくせに、と感じてしまうことから女・男に対して、望ましく思っていることを気づかせる。それはセックスかジェンダーか、なぜか。

生徒の挙げた例：「男のくせに泣き虫だ→男は泣かない方がよい」「男のくせに料理がうまい→男は料理が下手でもよい」「男のくせに運動ができない→男は運動ができた方がよい」「女のくせに料理ができない→女は料理ができた方がよい」「女のくせに部屋がきたない→女は部屋がきれいな方がよい」「女のくせに女好きだ→女は男を好きなのが良い」

生徒の感想：セックスだと思っていたことでもよく考えるとジェンダーか。同じ事柄でも性によって好ましいことと、好ましくないに分かれる。男のくせに…の方が見つけやすい。

(2) 女・男の言葉はどんな意味があるのだろうか。国語辞典の中から探して言葉の意味を解釈する。

生徒の挙げた例：「女心；女性に特有の性格・心理。やさしい、繊細だ、依頼心が強いなどの意味で使われている。」「女手：家事担当者としての女性」「女坂：二つある坂のうちでゆるい方」「男泣き：滅多に泣かないはずの男がたまりかねて泣くこと」「男手：労働力としての男性」「男気：犠牲を払ってでも人のために尽くしてやる気性」

生徒の感想：男の文字が入るとなぜか力強い気がする。女の文字が入るとなぜか弱い気がする。形式的な説明。当たっているけど実際にはあてはまらないことも多

い。

3) 第6・7・8回 世界の中のジェンダー

(1) 「貧しさと豊かさ」グループと合同でカンボジアの少女売春についてロールプレイをした。

生徒の感想：①(母親役を演じた男子生徒)「まず読み書きができないのが問題だと思った。カンボジアで字が読めるひとは男が60%、女が40%位だと知ってビックリした。子どもを都会に出すのは悲しいが、あれだけの大金をもらって舞い上がってしまっていて書類の内容もわからずに名前を書いたのがわかる気がした。」(Y I)

②(売られる女の子を演じた女子生徒)「洪水で家がつぶれて父も母も戦争の犠牲でまともに働けなくて、お兄ちゃんも帰ってこない。もしこうなったら私しかがんばれる人がいないと思って私でも働きに行きます。でも、それは仕事の内容がわかっていないから。仕事をやることになったときに「もう死にたい」とか人生をあきらめちゃうと思います。」(NA)

③(観客の生徒)「日本人客のような考え方はとても危険だとおもった。どんなにもなくても人の体をお金で買う気にはなれないと思う。」(J S)

④「日本の売春とはわけが違うと思いました。途上国の人にとっては売春はどう捉えられているのだろう。」(HT)

⑤「この劇の中でかわいそうじゃないのは客の日本人だけ。あとはみんな犠牲になってしまった。」(ST)

⑥「生きるか死ぬかだから仕方がないような社会はいけないと思う。」(MO)

(2) 男女平等教育が進んでいるといわれる北欧(ノルウェー)の教科書を例にあげ、女と男についてこれまで違うところばかりを注目してきたけど、実は同じことの方が多くことに気づかせる。

生徒の挙げた同じところの例：喜怒哀楽があるところ。人を好きになるところ。協力するところ。食べたり遊んだり生活するところ。ズボンをはくところ。人であるというところ。友達をつくるところ。やさしいところ。

4) 第9・10・13回 メディアとジェンダー

ジェンダーを再生産するものは何か。生徒に家庭教育、学校教育、メディア、その他の4つで自分のジェンダー形成を10として、影響した割合を聞いた。(表2参照)

(表2) ジェンダー形成に影響したもの (21人中)

影響したもの	全体で10を配分
家庭教育	2. 8
学校教育	2. 6
メディア	3. 9
その他	0. 7

その他の例：友人 人間関係

生徒が自分のジェンダー形成に最も影響を与えたもの

は、メディアだと考えていることがわかった。では、メディアはどのようにして私たちにジェンダー意識を刷り込んでいくのか。新聞・雑誌・TVなどから、男女どちらかにしかしない表現、性別ステレオタイプを協調する表現、性別役割を固定する表現、性を商品化する表現を探し、メディア・リテラシーに取り組んだ。

生徒の見つけた例：①映画「ギャング・オブ・ニューヨーク」。設定が19世紀だから仕方ないのかもしれないが、女を夜の遊び道具のように扱っている場面があった。『男なら誰でもこの鳥（女のこと）を美しく鳴かしてみたいと思うはず』みたいなせりふが。(HT)

②グリコ・タカラ マイセレクションBOX。お正月のお菓子の詰め合わせで、男の子用女の子用があって、男の子用のおまけは電車のおもちゃで、女の子用はリカちゃん人形がついていた。箱の模様は男の子は星で女の子用は花柄だった。女の子でも電車が好きな子どもはいるだろうし、男の子でもリカちゃん人形で遊びたい子どもはいると思うので始めから女の子用男の子用と決めてしまうのはよくないと思いました。そして社会的にみてやはり、男の子には外に出て電車などの乗り物に興味があり、女の子は家の中でおとなしく人形遊びをしているように見られていると思いました。(NH)

③TV「紅白歌合戦」。男性・女性に分かれてアーティストが歌を歌う。まず色、紅が女性で白が男性。出演者だけでなく審査員でさえ衣装が女性らしさ男性らしさを協調している。(M0)

5) ジェンダーフリーの社会を目指して

共生と平和のために、ジェンダーに気づこう、そして女も男も、男らしく、女らしくではなく、自分らしく、人間らしく生きよう、それがジェンダーフリーの社会である。このことに気づくことをねらいとしてこれまで授業をしてきた。しかし、共生とは違いを分かり合うとともに、共通することの多さに気づくことではないか。ジェンダーではなく、セックスは時代や文化で変わることのない普遍的なことと思われるが、セックスは2つしかないのか。ジェンダーとセックスについてTTSファミリーの松尾かずなさんにお話を伺った。この授業は「ヒトと人」グループと合同で行われた。

生徒の感想：①人それぞれ好みは違うし、自分や異性について疑問を持ったりすることもあるかもしれないけど、あってもおかしくないことだし、変でもない。今の社会では少し偏見的に見られ、差別みたいな扱いをされるけど、男か女に生まれるなんて紙一重のことだから、ちょっと女と男の中間の人が生まれたりとか、心だけが男、体は女とかの人がいてもいいんじゃないかな。(YW)
②自分の抱いている「男性観」「女性観」が一気にブチ壊れた。松尾先生を見ただけでも、声、格好、口調が僕のイメージする男性とはかなりかけ離れていたのだから、松尾先生が男だとわかったときには驚いて声も出なかった。

それとスカートや化粧が男性も昔からやっていたのは驚いた。(DF)

③性別はきっぱりと分けられるものではない。それをきちんと認識して理解して欲しい。必要もないのに性別を聞かれて区別されることがあるが、そんなことはやめてしまえばいい。男女で異なるとされていることが普遍的な違いではないし、大まかな平均のイメージによるものだとおもしろかった。一般的な女や男像のことも勉強してきたが、どちらにもあてはまらない人ばかりなのになぜそのような像がまかり通っているのかが不思議だった。端から見て考えると世間はおかしなことばかりだ。(AY)



7. 中間報告会

11回のところで3グループ合同の中間報告会を行った。目的はそれぞれのグループが学んでいることを他のグループの生徒にお互いが伝えあい、「共生と平和の科学」に関して知識の共有をはかることである。自分のグループが学んでいることが、他のグループとどのように関わり合っているかを知りその上で今後の学習につなげることも大きな目的である。中間報告会で生徒が「平和と共生」について考えていることをまとめたのでそのいくつかを紹介する。①発表しあってみてまだまだたくさんのことに固定観念があるのだなあと思った。またそのような中で共生していくには相手のことを固定観念などで決めつけず、理解することが大切だと思う。(YI) ②すべての人、生物、植物…あらゆる物が互いに生きるためには私たちがもっと世界のことを知り、受け入れ、考えなくてはいけないと思う。私は他の人の話を聞いても自分のことではないどこかすごく遠い所での関係ない話のように聞こえてしまうし、男女の固定観念があっても生きていけるならいいやと思ってしまう。でもそれではいけないと思う。(MK) ③この3つのグループを通して「平和と共生」は密接な関係にあるのだと思った。具体的にどのようにして解決するのかと考えると難しい問題ではある。発展した現代だから生まれた問題やまだ解決されていない問題があるので「どうすればいいのか」と

いわれてもなかなか考えられない。(中略) 他のグループの発表を聞いて、男女の差別・人という存在・すべてまとめて1つの問題なのではないかと思った。まず問題解決のためには正しい知識、1つの概念にとらわれずに世界をみる必要があるのだと思う私たちが今できることは「正しく物事をとらえること」のような気がする。(MK)

7. まとめ

3つの小テーマで探ってきた、共生と平和の実現のために必要なことを、中間報告会と最後の3回の授業で互いに話し合い、学びあった。方法は2つ。1つは「貧困

の鎖」の変形ワークショップ、「共生と平和のために」をつくること。(表3参照) 1つはクラスごとに集録をつくって読み合うこと。はたして共通する仮説を導くことはできたか。結果から言うと、各3つのテーマを理解し、考えるので精一杯で、3つテーマの中から共生と平和につながる共通性、法則性を見いだすことはできなかった。それぞれのグループで小テーマを学ぶ意義は十分にあった。3重らせんの絡み合い方が足りなかったのか、小テーマが大きすぎたのか。さらに実践を重ねて、新教科「共生と平和の科学」として共に探っていく方法を考えることが今後の課題である。

(表3) 「共生と平和のために」生徒の例

